# DAS－JAPAN NEWS

第 49 号：2022. 7. 1

ISO の審査を通じて最近感じていることを以下に示します。

## １．　ISO9001 要求事項はある企業がモデル！

１９８７年 ISO9001 が誕生しました。国際規格はまずは要求事項があり、その要求事項をベースに自社の仕組みを構築するわけですが、もともとどのような組織にも適用できるとされていることから、このモデルがすべて自社の仕組みにピッタリのはずはありません。世の中には何十万種の業種があるといわれていますから、各要求事項を自社の業務にうまく落とし込むのが役立つシステムの構築につながります。もっともその前に各要求事項の意図をしっかりと理解しておく必要がありますが。

## ２．　文書化の程度！

マネジメントシステムの構築は「文書化」が基本ですが、昔と様変わりしています。「若者の活字離れ」が顕著ですが、分厚い手順書を作成しても社員に読まれないようでは話になりません。ISO はプロセスの管理が基本ですから、仕事の流れをフローチャートでまとめただけでも立派なシステム構築になります。また社員の能力が高ければ形式的で見向きもされない手順書など必要なく、製品やサービスの質を確保する重要な箇所などの手順化だけでも十分だと思います。

## ３．　著しい環境側面！

ISO14001 のシステム構築で重要なのは、「環境側面」と「環境影響」の関連性を整理し、著しい環境側面を決定するステップです。EMS の運用の目的は、いかに環境影響を減らすかが目的であり、その原因となる環境側面にこそ注目すべきなのです。ところがどうでしょう。たいていの「廃棄物削減」の手順は、「ごみの分別」から始まっています。分別は廃棄物が出るから必要になるだけで、いかにして廃棄物を出さないかに注目すべきなのです。

## ４．　情報漏洩防止の基本！

ISO27001 の目的は、いかにして重要な情報の漏洩を防ぐかにあります。現代社会はさまざまな情報にあふれ、うまく活用すれば大きなビジネスチャンスにつながり、逆に悪事に利用されると大きな痛手をこうむる危険性をはらんでいます。ここでの一番の重要なことは、情報の中味の区分とその管理方法です。漏洩したら大きな損失につながるものから、むしろ一般の人に公開しビジネスのもとをつくるものまでしっかりと「情報重要度のレベル分け」がきわめて重要です。一方情報漏洩を防ぐ一番の基本は、不要な情報はいっさい回りから排除してしまうことです。漏洩のもとになる情報やデータがないわけですから、心配はなくなります。もしどうしても必要なら、ネットと切り離した環境で何重ものパスワードで管理しておくことです。

## ５．　客観的な証拠の整理！

ISO 審査は、マネジメントシステムに従った運用実績の証拠の確認が基本です。ところがそれらのデータの整理が思わしくなく、なかなか証拠が提示できず審査が中断してしまうことがしばしばあります。この原因は、社員の自己流でとりまとめているところも多く、当人がいないとどこにどの

ようなデータがあるのかが、さっぱりわからないケースが目立ちます。
これからの情報が価値を生む時代は、だれでも容易に目的の資料やデータを検索できる「データ検索システム」こそ早急に構築すべきです。もっとも今は自社に見合ったデータの整理・検索システムも多数市販されていますので、それらを活用してもいいでしょう。

## ＜ＤＡＳジャパンから＞

### UKAS ロゴマーク変更！

**先ごろ長年親しんできた UKAS ロゴマークが変更されました。前のマークに慣れていたせいもあり、当初は違和感がありましたが、徐々に新しいマークもそれなりの趣があり、今後当たり前になるかと思います。**

**この UKAS マークが変更された**

**QMS　　　EMS　　　ISMS**

**順次 3 年ごとの更新審査で認証書が新 UKAS ロゴマークに入れ替わりますが、名刺などでご活用される場合を考慮し、すべての登録組織様には事前にロゴマークを送付しておきます。**
**英国本部からは、即 new logo mark への切り替え要求がきていますが、旧マークを名刺やパンフなどにご活用の場合は、それらを使い切ってからで構いません。**

**ロゴマーク活用に際し、以下の点にご注意ください。**

1） 製品・サービスそのものに添付または表示できない。
2） 縦横の長さの比率を変えなければ、拡大・縮小はいくらでもできる。

（編集責任者　萩原由利）

英国系 ISO 認証機関 DAS ｼﾞｬﾊﾟﾝ(株)
代表取締役　萩原睦幸
東京都豊島区東池袋 3-20-16-503
info@das-japan.jp
http://www.das-japan.jp